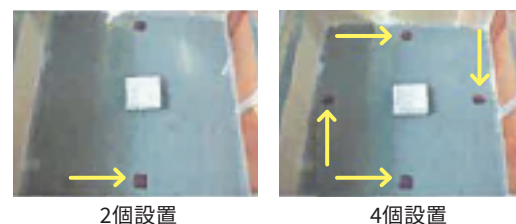


マックスフォース マグナムの誤食防止容器の 設置個数別効力比較について

試験協力：大日本除虫株式会社

1 目的

マックスフォース マグナムの用法・用量は『誤食防止容器1個に対して、薬剤を0.4g注入し、注入された容器をゴキブリの生息場所や出没する場所に1m²あたり1個の割合で配置』だが、ゴキブリとの接触確率が上がった方が効果に影響するのか、すなわち、①容器を1個設置（薬剤0.4g）、②容器を2個設置（1個あたり薬剤0.2g）、③容器を4個設置（1個あたり薬剤0.1g）の各設置個数の効力を検証した。



※写真は強制摂食法での試験風景。試験区中央にはシェルターを設置した

2 試験方法

① 試験区：1m²

② 供試昆虫：チャバネゴキブリ雌雄 各20頭 計40頭

マックスフォース マグナムのみを試験区に設置した強制摂食法と、試験検体のほかに水、餌（実験動物用固形飼料）を設置した任意摂食法で試験を行った。

3 結果

試験方法	設置法	LT ₅₀ * (日) (n=2)	平均薬剤摂食量 (n=2) (薬剤摂食率)
①強制摂食法	0.4g×1個	<0.5	0.42g/容器 (99.9%)
	0.2g×2個	<0.5	0.20g/容器 (99.7%)
	0.1g×4個	<0.5	0.11g/容器 (98.8%)
②任意摂食法	0.4g×1個	<0.5	0.39g/容器 (99.9%)
	0.2g×2個	<0.5	0.19g/容器 (93.2%)
	0.1g×4個	<0.5	0.10g/容器 (96.1%)

※ LT₅₀: Median Lethal Time (半数致死時間)

4 考察

強制摂食法では薬剤をほぼ完食し、LT₅₀値は0.5日未満であった。

任意摂食法でも薬剤をほぼ完食し、LT₅₀値は0.5日未満であった。



他の餌が近傍に存在する任意摂食法でも設置個数に関わらず薬剤をほぼ完食し、またLT₅₀値は0.5日未満であった。

よって、本試験では設置個数による効力への影響はみられず、1個でも十分な効果が得られることが確認できた。